

NO21 南北朝文化・北山文化

はじめにトライしよう！

NO171 歴史書・軍記物語 2002 本

「幕府の出来事を記した歴史書のほかに、独自の歴史観をもって書かれた史論や、軍記物語、随筆などの文学作品」について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 琵琶法師は、『平家物語』を平曲として語り継ぎ流布させた。○
- ② 『吾妻鏡』には、鎌倉幕府の歴史がつづられている。○
- ③ 『太平記』には、15 世紀に起こった応仁の乱の経過が叙述されている。✕
- ④ 鴨長明は『方丈記』において、変転する世相を無常観にもとづいて描いた。○

答→太平記は足利尊氏を主人公としている。

NO172 鎌倉時代の和歌 2003 本

和歌に関して、鎌倉初期の和歌や歌人について説明した文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 実朝は、自身の和歌集『金槐和歌集』を残している。
- ② 藤原家隆は、自身の和歌集『山家集』を残している。
- ③ 『新古今和歌集』は、後鳥羽上皇の命で編纂された。
- ④ 『新古今和歌集』の撰者の一人に、藤原定家がいた。

答→山家集は西行

NO173 禅宗文化 2005 追試

「禅宗はさらに興隆し、室町文化にも大きな影響をおよぼした」について述べた文として誤っているものを、次の①～④から一つ選べ。

- ① 『瓢鮎図』は、禅宗の思想を表現した水墨画である。
- ② 鹿苑寺金閣、寝殿造と禅宗様を折衷している。
- ③ 禅僧の間で流行した漢詩文が『菟玖波集』にまとめられた。
- ④ 大徳寺大仙院庭園は、枯山水の様式で造られている。

答→③

NO174 ベネッセ予想問題 2006

庶民文芸に関連して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「庭訓往来」には民間で歌われた小歌が収録されている。
- ② 宗祇が確立した連歌は正風連歌といわれている。
- ③ 狂言は能の間に演じられる風刺性の強い喜劇である。
- ④ 御伽草子は庶民に好まれる短編物語である。

答→①庭訓往来は武士の心得などが記された書簡形式の教科書で、南北朝期から室町時代初期に成立し、武士の子弟の教育に使用された。

NO175 南北朝時代の文化 2001—本 正誤

南北朝の動乱の時代に著された書物として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 樵談治要
- ② 増鏡
- ③ 神皇正統記
- ④ 梅松論

正解→樵談治要は一条兼良が足利義尚の諮問に答えた政治意見書である。誤りは①

NO176 南北朝文化 2010 本

次の文章を読み、空欄【ア】【イ】に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

鎌倉幕府の滅亡後、ただちに京へもどった後醍醐天皇は、新政の体制を整え、【ア】によって土地の権利を確定する方針を打ち出した。しかし、急速な権限の集中は混乱をよんで人々の信頼を失い、南朝と北朝が対立する時代へと進んでいった。このなかで北畠親房は、南朝の立場から皇位継承の理想を【イ】で述べた。

- ① ア 院宣 イ 『梅松論』
- ② ア 院宣 イ 『神皇正統記』
- ③ ア 綸旨 イ 『梅松論』
- ④ ア 綸旨 イ 『神皇正統記』

正解→④猫問(▽)

NO177 五山文学 2014 本

五山文学に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 代表的な作者として、義堂周信や絶海中津が著名である。
- ② 五山の漢詩文の一部は出版されて流布した。
- ③ 京都五山に拠点をすえた道元は、漢詩文と座禅の両立をめざした。
- ④ 漢詩文の能力がある五山の禅僧は、政治や外交の場面で活躍した。

誤文→③。道元は、鎌倉新仏教の一つである曹洞宗の開祖であり、室町時代の五山文学とは関係無い。

NO178 庶民文芸の発達 2004 追試

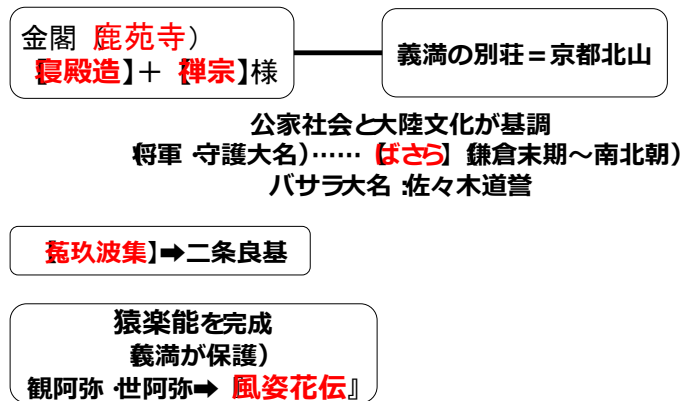
中世に生み出された、武士や民衆に愛好された文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 清元節は、出雲阿国が考案した踊りである。
- ② 室町時代、庶民の間に小歌がはやった。
- ③ 『国性爺合戦』は、御伽草子の代表的作品である。
- ④ 『節用集』は、鎌倉時代の民間伝説を編集した作品である。

正解→②、出雲阿国がおんな歌舞伎、国性爺合戦は時代物、節用集は奈良の商人が書いた辞書である。



公武の融合と大陸文化の影響 北山文化



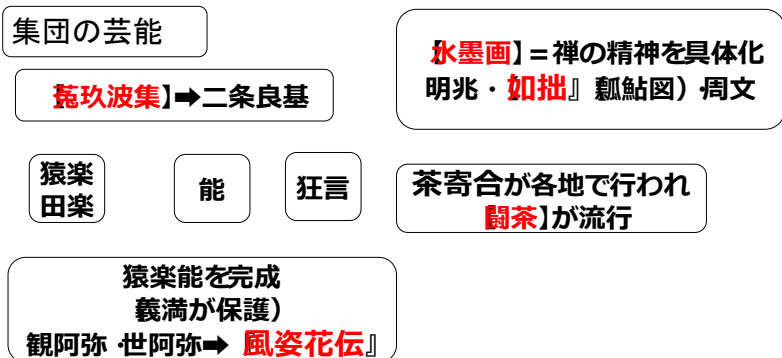
NO179 室町時代の武将と文化 2006一本 正誤組合せ

次の文章を読み、空欄【ア】【イ】に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

【ア】は、將軍足利義満の下で九州探題に任じられた人物である。彼は武将であるとともに、和歌や連歌をよくする文化人の顔を持ち、『菟玖波集』を編集した【イ】とも親交があった。

- ① ア 北畠親房 イ 一条兼良 ② ア 北畠親房 イ 二条良基
③ ア 今川了俊 イ 一条兼良 ④ ア 今川了俊 イ 二条良基
正解→④

能・狂言の発生



生花

立花→[池坊専慶]が大成

教育

【足利学校】再興 15世紀中→関東管領[上杉憲実]による
薩南学派:[桂庵玄樹]→薩摩の島津氏などに講義
海南学派(南学):[南村梅軒]→土佐の吉良氏などに講義
庶民教育→寺院でおこなう
教科書:[庭訓往来]・御成敗式目など
【節用集】→いろは引きの辞書 盲点になる!
※ その他
【御伽草子】→「物くさ太郎」・「一寸法師」
小唄→[閑吟集]